



グリーンレター Green Letter

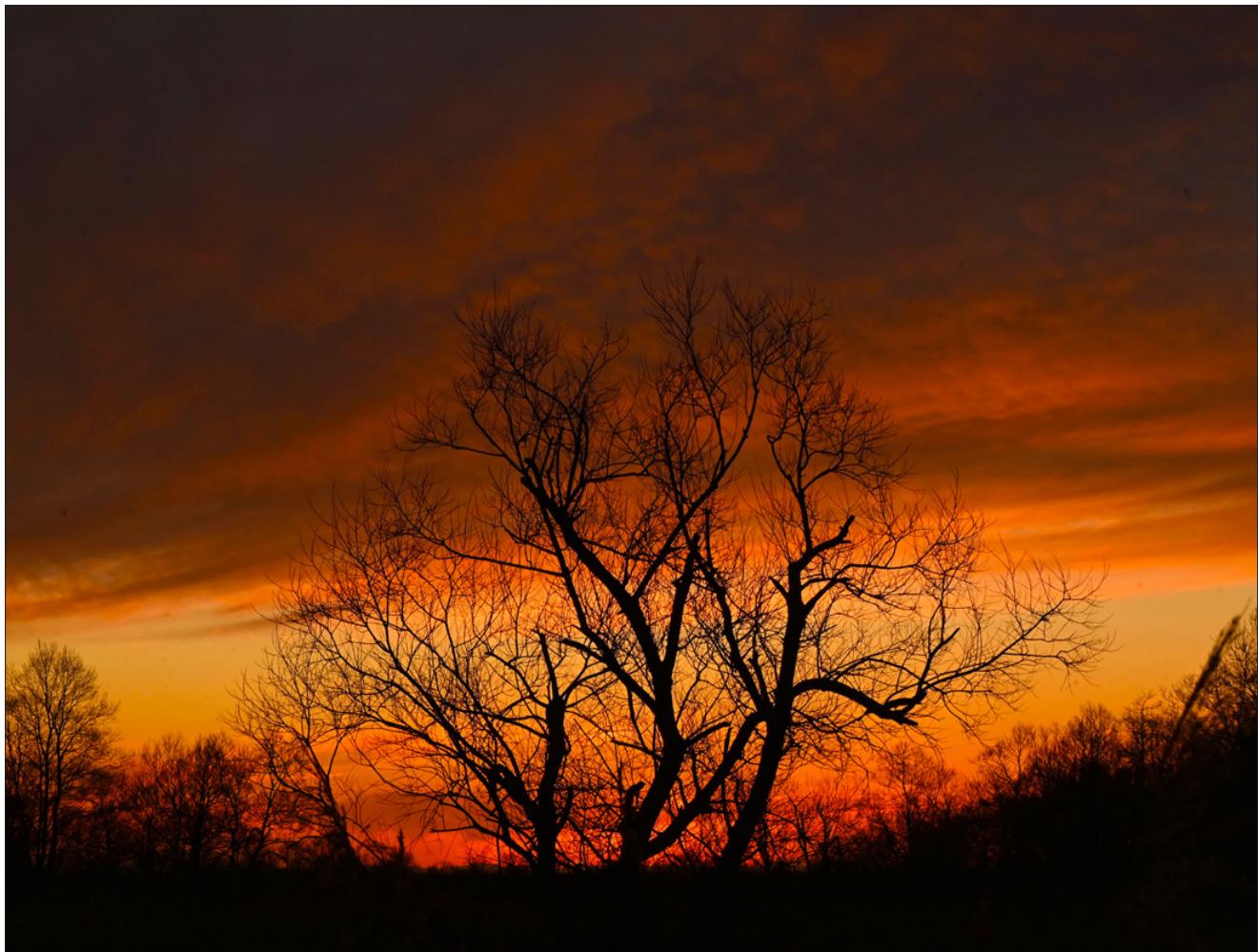
Green Column グリーンコラム

01 好きな虫

02 リンナイチャシ本当の姿は？

Vol.339

2025/10/01



鬼丸和幸《秋の夕焼け雲》

Photo 今月の1枚

今年は残暑が続き、9月に入っても気温が高い日が続きました。それでも9月下旬になると、突然大雨が降ったり、急に夜間底冷えするようになったりと、天気が急変するようになりました。秋が深まっていくと、分厚く濃赤色となった幻想的な夕焼け雲を、見ることができるものかもしれません。（鬼丸和幸）



01 Green Column グリーンコラム

好きな虫

写真・文／鬼丸和幸

現 在開催中の特別展「螢が舞う風景」ですが、早くも残り1か月の会期を残すのみとなりました。ご観覧いただきました皆様、ありがとうございました。

さて、8月の朝日新聞朝刊に、「あなたが好きな昆虫は?」という特集記事が掲載されていました。アンケート結果で1位になったのが「ホタル」。続いて2位「カブトムシ」、3位「クワガタムシ」でした。現代でも、闇夜に光る幻想的なホタルの姿が、広く受け入れられたのかもしれません。ただ、選ばれた理由の1つに「姿がはっきり見えなければという前提です」とあったそうで、少々がっかりしました。以前、ホタル観察会を行った時、参加された親子が光りながら飛び交うホタルの姿を見て、「初めて見ました。感動です!」とおっしゃられた後、ホタルを捕まえて、その姿を見られたとた

ん「キモイ~」と、すぐに手放された…という場面がありました。「暗闇で光る姿は好き。でも形は嫌い」…その矛盾したモノの見方に、違和感を感じました。

生き物に対して、姿形、動き、におい、すんでいる環境など、その全てを見たり、聞いたり、触ったり…した上で、その生き物の本当の姿を受け入れて欲しいと思っています。

特別展「螢が舞う風景」の展示では、ホタルの幻想的な画像はもちろん、実物標本や標本画での姿、美術や文学の世界での姿などを紹介しています。ホタルが持つ様々な姿を、知っていただければと願っています。

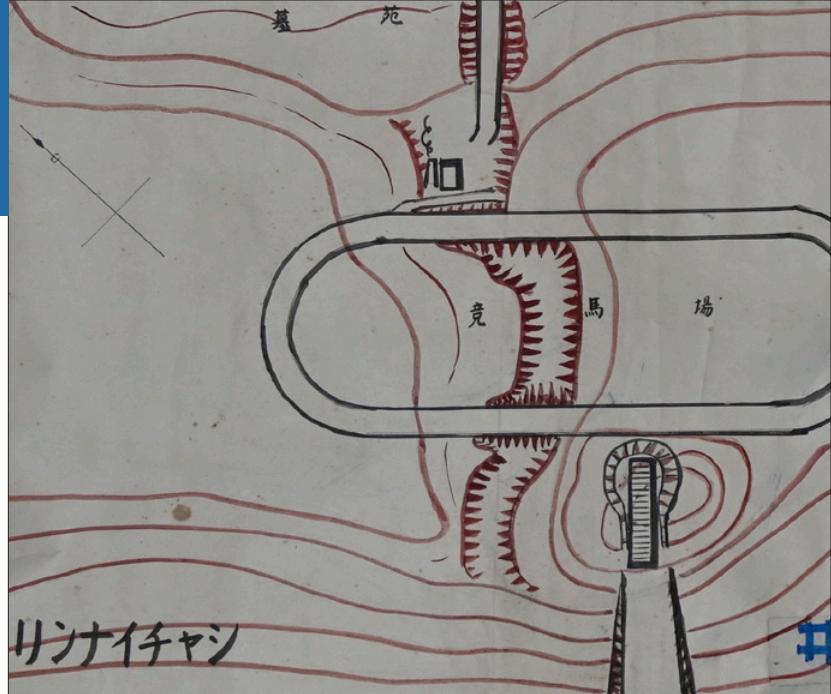
リンナイチャシ 本当の姿は？

写真・文／八重柏誠

柏ヶ丘運動公園内にあるリンナイチャシは、美幌町にあるチャシの中で最もよく知られたものです。昭和26年、スキーのジャンプ台の土台として使用されたことからチャシは壊され、現在の姿は「北海道100年事業」により展望台として復元されたものとなっています。

現在の柏ヶ丘運動公園は、野球場や陸上競技場が設けられた広大なスポーツ施設となっていますが、昔は種馬所や競馬場が設けられ、家畜市場としても使用されていた場所でした。現在では広く平坦な丘となっていますが、元の地形では丘の中央付近に沢がありました。昭和11年に競馬場を作る際には、走路部分のみ沢を埋めて作ったとされています。その沢があった場所は、現在の野球場と陸上競技場の間に位置していました。

元のチャシの姿を知るために古い



資料を探っていると、昭和30年代に美幌町郷土史研究会が作成したリンナイチャシ周辺の平面図が見つかりました。この平面図には当時の競馬場や沢跡も記録されており、リンナイチャシの本当の姿を知る手掛かりとなるものでした。現在のリンナイチャシは、崖に面した台地上に構築される面崖式チャシとして知られていますが、美幌町郷土史研究会の平面図を見ると、丘の先端にチャシを構築する丘先式チャシに似ているように見えます。リンナイチャシは土盛りのチャシとして知られていますが、そのチャシの上にさらに土を盛ってジャンプ台を作ったことも、この図から確認できました。

今では平坦な丘の縁にポツンとあるチャシですが、元の姿は崖と沢の間に挟まれた、極めて防御性の高いチャシだったのかもしれません。

Exhibition 展示

特別展「蛍が舞う風景」

～10月26日(日)

ロビー展「フィルムで振り返る復刻上映」

～10月5日(日)



Event イベント

持ち物等は申込時にご確認ください

美幌博物館開館記念日 無料開館

10/5(日)

美幌博物館・無料

博物館講座（自然編）

「スミレと生きるショウジョウバエのふしき」

10/18(土) 9:30～12:00

美幌博物館2階 視聴覚室・無料

講 師／中村祥子氏（森林総合研究所）

対 象／中学生以上（小学生以下は保護者同伴）

申込み／美幌博物館に電話で申込み（-10/17）。定員50名で締切。



チ工房「ラッププレスレット」

10/24(金)、25(土) 10:00～12:00、14:00～16:00 自由入室で作品ができる次第終了

美幌博物館1階 講座室・500円

講 師／八重柏誠（美幌博物館）

対 象／どなたでも（小学3年生以下は保護者同伴）

申込み／美幌博物館に電話で申込み。各日50名で締切。



送付先の変更、または停止などをご希望の場合

お引越しなどでご住所が変わられた、あるいは送付を止めてほしいなどのご希望がございましたら、美幌博物館までお知らせください。



Tweet つぶやき

我が家の大愛犬は甘やかしすぎたため、わがままな犬に育ってしましました。そばにいろ、食べ物くれと毎日吠え続けてます。先日、これまで聞いたこともないような悲しい声で泣き始めたので、念の為動物病院へ連れて行くと、ただの食べ過ぎでした。ちょっと迷惑な愛犬です。（八重柏誠）



美幌博物館月刊情報誌 Green Letter

【発 行】美幌博物館

【デザイン】城坂結実

【編 集】八重柏誠

【お問合せ】美幌博物館

〒092-0002

北海道網走郡美幌町字美禽 253-4

Tel. 0152 (72) 2160

Fax. 0152 (72) 2162

